

農と福祉連携深まれ

後継者不足に悩む農業分野に、障害者の労働力を活用する「農福連携」が県内でも広がりを見せている。農業にはさまざまな仕事があり、障害の程度によって働ける可能性があるため、福祉事業所が農業に参入するケースは年々増えている。一方で、農家が障害者を直接雇用する取り組みは進んでおらず、課題となっている。

(吉川翔大)

青々とした葉を付けたイチゴの苗が並び、ビニールハウスの中で、知的障害者らが二人一組で作業をする。比較的障害の軽い人は余分な葉を摘み、重い人は摘んだ葉を回収する台車を運ぶ。外では、水路に詰まった土砂を撤去するため、力仕事に励む人もいた。

社会福祉法人まつさか福祉会(松阪市)が運営する「八重田ファーム」では、二十〜六十代の障害者十六人が役割を分担して農作業にいきなす。前田佳孝所長は「障害者と言っても能力はさまざま。いろいろな仕

追う

障害者の直接雇用が課題



事があるのが農業の良いと段ボールの組み立てなど「軽」と話す。収穫したイチゴはジャムにも加工しており、ラベル貼りが得意な人もいる。

同法人が農業に参加したのは約十年前。それまではイチゴは県内のスーパーか

らも好評で、高値で売れる。

ビニールハウスは十一棟で計三千平方メートルほど。ほとんどは高齢で引退した農家の担当者は「農福連携に心があっても、いきなり障害者を雇用するのは難しい」と考える農業関係者もいる」と話す。

県が新たな連携の形として推進するのが、障害者が福祉事業所から農家に働き

解決につながる農福連携には、県も力を入れる。昨年は各地の取り組みを紹介する「農福連携全国サミット in みえ」を開催。今年七月には農福連携の全国ネットワークも発足し、鈴木英敬知事が会長に就任した。

県によると、まつさか福祉会のように農業に参入した福祉事業所は今年三月時点で四十事業所で、五年前の十四事業所から大幅に増えた。就労する障害者も百七十九人から五百十二人に増え、新たな雇用が生まれ

イチゴの手入れをする八重田ファームの障害者たち。地域の農業の担い手にもなっている。松阪市で

「障害者の人たちは栽培する楽しみを感じながら農作業をしている。頑張りを知ってもらえればいい」と願っている。

た。

農と福祉連携深まれ

後継者不足に悩む農業分野に、障害者の労働力を活用する「農福連携」が県内でも広がりを見せている。農業にはさまざまな仕事があり、障害の程度によって働ける可能性があるため、福祉事業所が農業に参入するケースは年々増えている。一方で、農家が障害者を直接雇うする取り組みは進んでおらず、課題となっている。

(吉川翔大)

青々とした葉を付けたイチゴの苗が並び、ビニールハウスの中で、知的障害者らが二人一組で作業をする。比較的障害の軽い人は余分な葉を摘み、重い人は摘んだ葉を回収する台車を運ぶ。外では、水路に詰まった土砂を撤去するため、力仕事に励む人もいた。

社会福祉法人まつさか福祉会(松阪市)が運営する「八重田ファーム」では、二十〜六十代の障害者十六人が役割を分担して農作業にいきなす。前田佳孝所長は「障害者と言っても能力はさまざま。いろいろな仕

障害者の直接雇用が課題



事があるのが農業の良いと段ボールの組み立てなど軽こころ」と話す。収穫したイチゴはジャムにも加工しており、ラベル貼りが得意な人もいる。

同法人が農業に参加したのは約十年前。それまではイチゴは県内のスーパーか

らも好評で、高値で売れる。

ビニールハウスは十一棟で計三千平方メートルほど。ほとんどは高齢で引退した農家の担当者は「農福連携に関心があっても、いきなり障害者を雇用するのは難しい」と考える農業関係者もいる」と話す。

「できた」と話す。

農業と福祉の双方の課題解決につながる農福連携には、県も力を入れる。昨年は各地の取り組みを紹介する「農福連携全国サミット in みえ」を開催。今年七月には農福連携の全国ネットワークも発足し、鈴木英敬知事が会長に就任した。

県によると、まつさか福祉会のように農業に参入した福祉事業所は今年三月時点で四十事業所で、五年前の十四事業所から大幅に増えた。就労する障害者も百七十九人から五百十二人に増え、新たな雇用が生まれ

イチゴの手入れをする八重田ファームの障害者たち。地域の農業の担い手にもなっている。松阪市で

一方で、障害者の雇用に乗り出す農業側の動きはまだ鈍い。今年三月時点で障害者を農業分野で雇用する企業や個人の数は十四にとどまる。雇用する障害者も二十七日で、五年前の十七人から伸び悩んでいる。県担当者は「農福連携に関心があっても、いきなり障害者を雇用するのは難しい」と考える農業関係者もいる」と話す。

県が新たな連携の形として推進するのが、障害者が福祉事業所から農家に働きに出向く方式だ。収穫期など人手が必要な時期に障害者の手を借り、連携を深める狙いがある。担当者は「受け入れる農家側にも、働く障害者側にもいろいろな選択肢があるようにしたい」と意気込む。

機運を高める取り組みも続いている。県は十八日、県内の事業所などが農産物を出品する「農福連携マルシェ in みえ」を、津市の県総合文化センターで開催する。八重田ファームも参加する予定だ。前田所長は「障害者の人たちは栽培する楽しみを感じながら農作業をしている。頑張りを知ってもらえればいい」と願っている。

追う